
恋するハイビスカス

吉野華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋するハイビスカス

【Nコード】

N7931E

【作者名】

吉野華

【あらすじ】

南国の乙女は恋を知り、恋は彼女を強くしたのだ。

水平線の向こうに奴隷船を見送り、数日が経過していた。

残されたクラリッサは、彼女の新しい恋人と夕焼けの波打ち際を散策していた。

大陸出身である肌の白い彼は、紳士的な外見よりももう少しだけロマンチストで、クラリッサの髪にハイビスカスの赤い花を飾ってくれた。恋人は甘く優しく、クラリッサに贅沢をさせてくれるのだが、その笑顔を間近にする度に、彼もまた遊びなのかもしれない、そんな不安がクラリッサの胸をよぎる瞬間を否定することはできない。彼の腕に頭を寄せてその白い喉を眺めていると、出身地も人種も異なるこの素敵な恋人が、遠い存在のように思えてならなかった。それは最初の恋人、奴隷船に乗って海の彼方に旅立ってしまったあの人の傍にいたときには、感じたことのない不安だったのだ。

彼を失うことが恐いなんて、わたし、この人のことを愛し始めているのかしら……？

そんなことをふと考えたときだった。夕暮れ時の穏やかなひととき、彼に寄り添い夏の砂浜を歩くクラリッサの耳に、あの懐かしい声が聞こえた気がした。

少女だったクラリッサが最初に愛し、そして当たり前のように傍にいてくれたあの人の声が――。

「この外道がああッ」

その怒号に驚いて振り返ると、海草を手足に巻きつけた男が一人、クラリッサたちの背後にあった。その辺りの海辺を歩いていた山奥の樵から取り上げた斧を構えたクラリッサの昔の恋人が、目玉を剥き出さんばかりの形相で彼女のもとへ駆けつけてきたところだった。よもや海原を自力で泳ぎ渡って来たのか、全身はずぶ濡れ、唇から

は海水とも涎ともつかない液体を垂れ流し、かつてクラリッサが愛したあの日焼けをした精悍な顔が、今は悪鬼のごとき惨憺たる容姿となって憎しみにぎらついていた。

「ティボールド……、どうしてっ……」

突然の再開に戸惑うクラリッサ、警戒して彼女を守ろうと手を広げる彼女の恋人。その腕を押しやって、クラリッサはかつての恋人にそっと歩み寄った。

「ティボールド、貴方、まさかわたしのことが忘れられずに……？」

クラリッサの胸をよぎる甘い動揺を、かつての恋人は即座に拒否した。

「ああんッ！？ 忘れられないだってッ！？ よくもそんな鬼みた
いなことが言えるなこのクソアマッ！

俺がああ船上でどんな目にあわされたと思ってやがるんだ。そんな大陸野郎をたらしこんでこの俺を炭鉱送りの奴隷船に乗せるなんぞ、ふてえ女だよてめえって女は……」

「おまえが人道に反し彼女を僕に売ったんだっと思うが……」

クラリッサの恋人が迷惑そうに呟いた。

「てめえも銀貨二枚で女を買ったのは思いっきりヤリ目だったんだろうが馬鹿！」

ティボールドが怒鳴り散らした。

「お願い、もうわたしのために争わないでっ！」

クラリッサが両手を胸の前で組み合わせて純情可憐な悲鳴をあげる
と、野性味があふれすぎて今や海賊と言って構わない荒くれ者の風
体となった昔の恋人は、齒を剥いてクラリッサを罵倒した。

「てめえなっ、今の会話の何処がてめえのために争っているように
見えるってんだよ！」

俺が戻って来たのはてめえのためじゃねえよ、てめえのようなふて
えアマをな、ぶっ殺すためにだッ！」

そう言うが早いかそのまま彼はクラリッサの顔面に向かって斧を振
り下ろしたのだが、クラリッサは片腕でその刃を掴み、その一撃を
食い止めたのだ。

クラリッサとティボールドはその体勢のまま睨み合い、一陣の熱風
が二人の間を吹き抜けて行った。椰子の木がそよぎ、永遠とも思え
る時間が流れた。

クラリッサはティボールドの暴拳を食い止めた左手に力を込め、気
合い一閃、陶器の皿を砕くように鉄製の樵の斧を握り潰して粉碎し
た。

砕かれた鉄の破片が夕焼けの輝きを帯びて周囲に飛び散り、商売道
具を破壊された樵が背後でか細い悲鳴をあげる。

「うぐっ、何という力！」

ティボールドは唸り声をあげた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7931e/>

恋するハイビスカス

2011年10月3日23時09分発行